

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175700168		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・蓮田東		
所在地	埼玉県蓮田市東2-1-19		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 11 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29 年 9 月 14 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より行っている木曜日13時からのレク活動が日常生活の一部になって来た。ご利用者様も楽しみの時間になり、皆さんより「今日は何をしましか」と質問が出るほどです。日常生活を今年度より「一言通信」を作成してご家族様に情報を発信している。玄関などに掲示をして見学者や、訪問時に見て頂いています。各階に日常の様子を載せています。今年度のスタートが利用者20名 空室7居室からのスタートになり職員には美化清掃を強化して頂き、モデルルームを1室作りました。ホーム長は「一言通信」を持って行き近隣の居宅回らせて貰いました。6月18日には内覧会企画フラワーアレンジメントの先生をお呼びして蓮田東のご利用者様を増やす努力を行いました。6月より地域の認知症の会に参加出来る様になりました。今後は地域に近い施設運営を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営するグループホームの第1号店で、草分け的な事業所である。大きな特徴のひとつは、利用者やその家族に対して素早い対応に努めていることである。入所に対してのスピードが早く、最短3日で受け入れた事例もある。また、管理者と職員同士の、コミュニケーションも緊密で、いつも笑顔が絶えない、明るい事業所である。職員の笑顔は、利用者の笑顔に繋がっている。毎週木曜日に定例開催される、レクリエーションは定着しており、職員と一緒に、習字、切り絵、貼り絵、染め物など多彩で、利用者の楽しみのひとつになっている。医療との連携においては、法人が持つ、クリニックとの提携の他にも、事業所独自に精神科病院やターミナルケア主体の病院とも提携している。いずれも、24時間オンコール体制を整えている。また、訪問歯科や訪問リハビリ、シニアエステなどもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様中心の生活を心がけています。個人の意思を尊重した生活を提供しています。	法人の理念と事業所の理念を合わせ持つ。「ご利用者様を尊敬し、思いやりを持った介護」を常に心がけている。重度者への介護や骨折で入院し退院後再入所の者への対応など、個別のキメ細かいケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6月18日内覧会を行い イベントとして「フラワーアレンジメント」教室を開きました。20名の参加を頂きました。内覧会でホーム内の見学も行いさまざまな意見を頂きました。	法人の第1号店で歴史は古く、地域の住民の理解も深まっている。オムツや、車いすの寄付もある。「認知症家族の会」にも出席し、最近では、「フラワーアレンジメント」を開催、内覧会も兼ねて地域密着を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月から、地域包括主催の認知症の会に参加をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月に行った運営推進会議に包括支援職員、長寿支援課職員の参加を頂き、「緊急的に受け入れて貰える施設になってほしい」と要望を頂き「認知症の会」参加のお話を頂きました。	2か月に1回定期開催している、複数の家族、地域包括支援センターの職員、事業所代表が参加している。最近の議題は、水害やJアラートなど、タイムリーな話題をテーマに活発な議論がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度認知症の会に参加をしています。皆さんのニーズを伺い 出来るだけご希望が叶う内容の話が出来る様に連携を取っています。	地域包括支援センターが主催する「認知症家族の会」に出席し、連携を図っている。また、月に一度市役所から、介護相談員が来訪して、打ち合わせしている。市の担当者からも、随時メールなどで情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回フロア長会議の時間を使い 実際の介護の話を変えて話し合いをしています。	月1回のフロア一会議で徹底している。言葉遣い、スピーチロックはないか、チームとして、問題はないか、常に確認し合っている。本社からも随時研修がある。また、気になることについては、少しずつ、注意しながら直すように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回フロア長会議の時間で、問題行動は無いのか？話し合い職員会議でまとめた内容を職員へ伝えていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に外部研修などに参加をお願いして職員のスキルが上がる様に配慮をしている。 資料を頂き、各階の参考資料もしくは会議で話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実調時に、契約時の時に時間を頂く事をお願いしています。 出来るだけ細かい質問までお話し出来る様な体勢を取っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員へ要望があった時は全体に話をする。介護の内容で職員が伝えきれない時はホーム長が後日対応しています。 要望に応えられる様に努めています。	家族会と運営推進会議を兼ねて開催し、家族から意見をくみ取っている。また、家族の来訪時にも、随時意見交換している。月1回発行の「ひとこと通信」でも情報発信している。結果、入所できない人の入所にもつながった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階でフロア長に職員の指導はお願いしていますが、難しい時はホーム長が全体的に話をします。出来るだけ職員の意見は応えています。	フロア一長会議が月1回。本社会議を受けた職員会議が月1回開かれている。様々、意見が出されるが、自分たちに出来ることは、積極的にやっている。また、個別面談も実施して、目指す方向を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年昇給制度があります。資格手当を頂ける様になりました。介護福祉士を目指す、ケアマネを目指す目標にして頂きたいと思っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加出来るシフト作成、シフト作成前に外部研修の話をするなど、出来る限り研修の参加をサポートしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	蓮田合同会議が4月～始まりました。皆さんが日々業務で困っている事の共有が出来る様になりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に出来るだけ、元気になって貰える様に話をし、本人の不安を解消し自信が持てる様な声を掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、実調時にニーズを伺い、出来るだけ問題行動では無く、家族が見過ぎていた発見を伝えご家族様に安心して頂いています。面会に来たいと思う様な声かけをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調調査時に細かくニーズを聞き対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭に生活に近いケアを心がけている。一人一人に時間を掛けて対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに遊びに来た時はゆっくり過ぎて頂いています。 居室内で食事なども出来る様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力を頂き、対応しています。 ご家族様に事前にご連絡をお願いしています。	家族の了解を得て、近所の人や友人が面会に来ている。友人と一緒に食事に行ったり、病院の付き添いをする友人もいる。昔の職場の人が、好きな食べ物を持参して談笑したり、また、手紙や電話などのサポートもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時からのお茶の時間は皆さんで共有出来る時間になっています。好きな物を飲める様対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お電話を頂き対応する事もあります。お悔みのご連絡が入る事も多くなりました。生前のお礼にと訪問して下さるご家族様も増えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスは細かく行い、職員が気がついた事は各階の申し送りに記入している。出来るだけ個々のケアに力を入れています。	入所時、過去の生活歴、趣味、嗜好、入所後の暮らし方の希望など、詳細確認している。日常のケアの中で、どこが良くて、どこが問題なのかの把握に努めている。うまく表現できない人は、表情などから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調調査時に細かく確認しています。排泄事情など細かく対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はやって貰う事を職員に周知しています。出来ない時は職員が配慮する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り、ご利用者様の変化があった時は声を掛けて対応しています。	月1回のケアカンファレンスに、生活記録、バイタルチェック表、入浴表、申し送り等の記録を基に、フロー長を中心に合議している。みな意見を出し合い、ケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ナンバリングをつけて、プランに反映をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があった時は、プランを変更して対応しています。入院時、退院時、転倒時などにプランを変更しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様が近い所に住んでいる方増えています。本人と散歩をしながら、自宅に戻る方も居ます。本人も自宅に戻れる事を楽しみに生活をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のドクターにお願いをしている方も多くなりました。ご家族様が往診に立ち合う。必要時はクリニックへ家族様がドクターと直接話ができる様な連携を取っています。	法人の医療機関と提携している他、地元の精神科、ターミナルケア往診の医療機関とも提携している。訪問診療は、月2回、訪問歯科は月4回来ている。また、希望者には、訪問リハビリ、シニアエステなども提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師が訪問します。ドクター往診時は看護師さんも同席しますので、ドクターに聞けない事も相談が出来る様に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院は出来るだけ慌てない様に、事前に書類をまとめています。ご家族様の負担にならない様な対応をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の要望、ドクターの今度の方針により出来ない事では無いと思います。職員もスキルが上がっていますので最後まで見届けたいと思う気持ちが芽生えて来ました。	入所時に、事業所として出来ること、出来ないことを、細かく説明している。重度化した場合は、かかりつけ医、家族、事業所が何処で最期を迎えるか、きめ細かく打ち合わせをしている。また、看取りの経験も1名ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間対応にならない様に細かく日中の時間でご家族様に報告して早めの対応をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練、日中総合訓練 自然災害、地震訓練を行っています。	年2回消防署立ち合いで、避難訓練を行っている。自然災害の避難訓練も別途実施している。また、緊急通報装置や非常用ボタンも完備されている。なお、非常用備蓄は、オムツ、飲料水、保存食などである。	隣接に、同法人有料老人ホームやデイサービスがあり、避難訓練やイベントの合同開催等ができつつある。地域住民ともより一層連携を深めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮をする声かけ、入浴時や、排泄時の対応などを職員に会議を使い伝え、実行して頂いています。	書類はロッカーで管理し、シュレッダー廃棄も徹底している。パソコンは、IDパスワードで管理し、データの持ち出しは厳禁である。また、オムツは、むき出しにせず、風呂は、パーテーションで仕切るなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選べる時は、選んで頂く事。入浴の順番を皆さんに決めて貰う声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、顔色などを考慮して声を掛けています。 余り無理な声かけをしない様に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時の更衣や、下着の取り換え 男性は髭そりの実行などで、清潔を保っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事になりますよと、30分前位から声を掛けています。排泄などを事前に済ませる様に声かけ実行しています。	食事は、厨房スタッフが作っている。献立、カロリー計算もされている。月に1度、季節食があり、夏のソーメン、冬至のカボチャなど喜ばれている。おやつは、職員と一緒に、焼きそば、ホットケーキなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、主食の量 副食の量などを細かく管理をしています。食事の足りない時は栄養補助ドリンクなどの処方もドクターに相談をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣にしています。毎週3回夜間の入れ歯洗浄を行う事を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムは個々で違います。排泄のタイミングを知り、失禁が無い様にケアをしています。	各自の排泄チェック表を作成して、定時に声掛けして、トイレ誘導している。声掛けも「ちょっと、出かけませんか」などと配慮している。夜間は、起きている人に声掛けして、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ、下剤に頼らない排泄を検討しています。日中の運動(出来る時は散歩)体を動かして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく気持ちよく入浴出来る様に個々の時間で対応しています。午後の時間を使い入浴をして頂いています。	好きな時に好きなだけ入浴出来ることを基本にしている。入浴は、いつでも入浴可能であるが、基本午後バイタルチェック後入浴している。職員と一緒に鼻歌など歌う人もいて、職員との会話も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、就寝の時間までゆっくり過ごす個々の時間で休める様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来るだけ少なく対応出来る様にドクターと連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	木曜日午後の時間を使いレクリエーション活動を継続的に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との時間を大切に頂きたくと思って日々の体調管理に努めています。外出時に排便などが重ならない様に配慮をしています。	天気の良い日は、10時のお茶の後、近隣を散歩している。また、個別には、職員同行で近くのコンビニやスーパーに買い物にも行っている。家族が来たときは、一緒に、買い物や食事を楽しんでいる人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失しない程度の金額で自己管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話、個人の携帯電話を使い自由に通信が出来ます。手紙は郵送送られて来た物は直接渡します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す為に、壁画などに力を入れている階があります。玄関の壁画は毎月順番に各階で製作しています。8月は2階の作品花火です。	リビングは、日当たりの良い南側にあり、窓も大きく、明るい。壁には、利用者がレクリエーションで書いた習字や、切り絵、貼り絵などが飾られ、季節を感じることが出来る。また、棚や玄関には、みんなで作った手芸や染め物なども置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内にソファを置き、一人になれる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅でお使いになっていた物を居室内に持ち込み過ぎている方など、ご家族様が入居時にご協力して揃えて下さっています。	ベッド、クローゼット、チェスト、寝具、空調は備え付けられている。入居の際は、身近な物、趣味の物、嗜好品などカバンひとつで入居できるようになっていて、在宅の延長で暮らせる、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、時間を掛けても行い見守る事を職員と話し合い決めました。出来る限り自身で行う事を目標に支援しています。		